

地域ぐるみで支える在宅緩和ケアの取り組み 東京都在宅緩和ケア支援センター講演会開催

2月14日(土)、都民ホール(東京都新宿区)において東京都在宅緩和ケア支援センター講演会が「地域で支える在宅緩和ケア」をメインテーマに開催された。

開会挨拶で川畑正博氏(東京厚生年金病院在宅緩和ケア支援センター長)が「在宅緩和ケアから地域で支える緩和ケアへ。それがいのちの文化の再生につながる」と述べた後、Ⅰ部として市原美穂氏(NPO 法人ホームホスピス宮崎理事長)による基調講演「安心して暮せる地域づくりへの取り組み」が行なわれた。「宮崎をホスピスに」の精神で地域を支える市原氏は、「心ゆるゆる患者サロン」や「宮崎聞き書き隊」などさまざまな活動のほか、自宅ではないもうひとつの「家」を通して、暮らしのいのちを支える取り組みについて事例を含めて紹介し、最期までどう生きるかの重要性を問い掛けた。



続いてⅡ部としてパネルディスカッションが行なわれた。東京各地における在宅緩和ケアの取り組みとして、大島泰江氏(訪問看護ステーションコスモス)は山谷地域の自立支援ホーム「コスモスハウスおはな」を、大池ひとみ氏(新田クリニック)は多摩地域の子どもを巻き込んだ「いのち」を考える取り組みを発表。大池氏が在宅緩和ケア充実のために必要なこととして挙げた「在宅(緩和)ケアに対する情報を得やすくする」ことは確かに課題といえるのではないだろうか。

山越武司氏(白十字在宅ボランティアの会)は自身の経験から、現在は全国的に在宅で看とれる状況にないことを強調し、早期退職後、在宅介護のサービスを始めた小西伸彦氏(東京山の手まごころサービス)の発表を受けてはコーディネーターの秋山正子氏(白十字訪問看護ステーション)から「在宅緩和ケアの実現にはマンパワーが必要であり、(これから自由な時間を得ることになる)団塊の世代に地域を支えてほしい」との発言もあった。また、経営すればするほど赤字になるという「コスモスハウスおはな」に定額給付金を寄付したい、と会場から声も上がるなど、あたたかななかに参加者1人ひとりのモチベーションを高める講演会であった。

今後の研修会などの日程は下記まで。

●東京都在宅緩和ケア支援センター
E-mail zaitaku-kanwa@tkn-hosp.gr.jp
TEL & FAX 03-3269-0994